

研究分野	資源生態	部名	資源開発部
研究課題名	東通原子力発電所温排水影響調査（海洋生物調査：サケ）		
予算区分	水産業企画調査費（交付金）		
試験研究実施年度・研究期間	H15～H27		
担当	吉田 雅範		
協力・分担関係	なし		

#### 〈目的〉

東北電力東通原子力発電所の温排水が、施設前面海域および周辺海域に与える影響を把握する。

#### 〈試験研究方法〉

調査計画に基づき以下のとおり実施した。

- (1) 定置網敷設場所の水温：自記式水温計を4地区のサケ定置網に設置し測定した。
- (2) 主要魚種（サケ）漁獲動向：平成19年漁期のサケ沿岸漁獲尾数を調査した。
- (3) サケ親魚の標識放流：白糠漁港前沖において平成19年10月16日に30尾、11月17日に30尾の合計60尾を放流した。標識はディスクとロガーを用いた。

#### 〈結果の概要・要約〉

##### (1) 定置網敷設場所の水温

平成19年のサケ定置網が敷設されている海域の日平均水温は、9月は20.1～21.3℃（前年19.0～21.8℃）、10月は17.0～20.7℃（前年15.7～19.6℃）、11月は14.0～17.1℃（前年14.2～17.1℃）、12月は10.8～14.2℃（前年11.5～14.2℃）、1月は7.9～11.6℃（前年10.3～11.5℃）であった（図1）。

##### (2) 主要魚種（サケ）漁獲動向

平成19年漁期のサケ沿岸漁獲尾数は、青森県全域が138.0万尾（前年比79%）で、そのうち太平洋側が104.4万尾（前年比80%）であった。また、白糠漁協と小田野沢漁協の合計値は15.1万尾（前年比68%）であった（図2）。

##### (3) サケ親魚の標識放流

10月16日放流群が6尾、11月17日放流群が7尾の合計13尾が再捕された。そのうち9尾から、放流から再捕までの期間の生息水温、水深、時間のデータを得た。水温は6～20℃、水深は0～89mの範囲であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

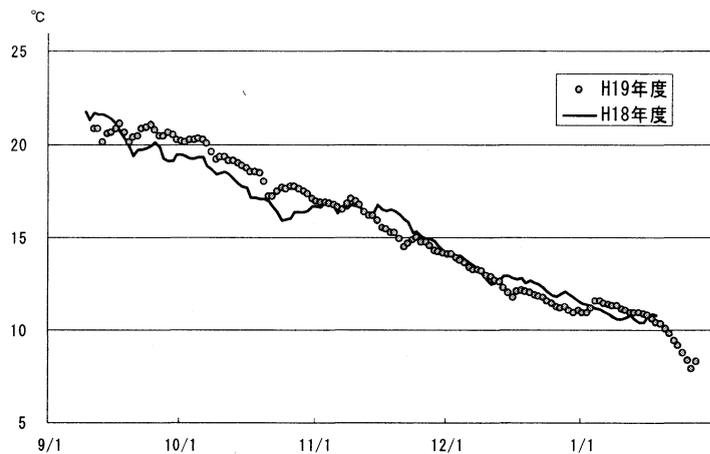


図1 サケ定置網海域日平均水温の推移

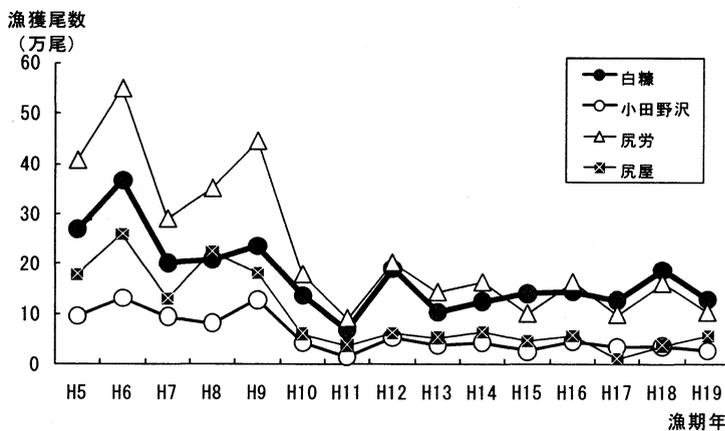


図2 東通村太平洋側各漁協のサケ沿岸漁獲尾数の推移

〈今後の問題点〉

特になし

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同様

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・平成19年度第3回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会監視委員会で報告
- ・平成19年度東通原子力発電所温排水影響調査結果報告会（第3四半期）で報告
- ・平成19年度東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書